

『INCH の楽しい仲間たち』 vol.10 その2

会社より山小屋のほうが居心地がいいようで（展望荘ではたらく）

土居将人（府中市）

前号では山小屋バイト生活をふわっとまとめました。意外と会社然としていて、そして牧歌的な生活を夢見たバイトが去っていく。そんな山小屋生活も1年が過ぎ、改善点なんかも出てきました。今月のTOPICと題したひとことコラムを書いて季節感を出そうとしたり、小屋じゅうを掃除したり。そして今回の寄稿を書くこともあり、そもそも山小屋はどう在るべきかと考えるようになりました。ナマステに載せるには毛色が異なる話かもしれませんが、少々お付き合い願います。



＜ハケ岳縦走中の一枚。横岳から赤岳を望む。＞



＜今月の TOPIC 7 月回。まだまだ模索中。＞

山小屋はどうあるべきか？前提として、山小屋は必要である。体力自慢の若者や日帰りハイカーには無縁かもしれないが、だから不必要だと言うのは自己チューだ。小屋泊まりなら荷物を軽くでき、歩きやすい道を整えれば事故が減る。もし事故が起きれば、警察などと連携することで助かる命がある。だ

から山小屋は必要だ。ではどう在るべきかという、どうしても「いろいろ特徴があっていいんじゃない？」と当たり障りのない答えしかできなかった。そうだろう、「スーパーの運営方針はどうあるべき？」と同じで、安く売るも親身な接客をするも自由、印象よく儲かっていけばいいのだから。

さみしいことかもしれないが、山小屋だって営利目的の企業である。勤務先の天望荘グループはその傾向が大きく、少ないコストで大きな利益を上げる工夫が各所に見える。働く側にしても、朝 4 時半から 21 時までの仕事時間に休憩を取りたいために、客の意向と仕事効率を天秤にかけ断ったりする。だから手が空いてたって、時間外に昼食を頼まれてもお断りするのだ。

もちろんそんな態度では登山客を不快にしてしまうし、それは本望ではない。ハケ岳を縦走したときも、他小屋のスタッフになにかと親切にもらった。小屋番といえば、小屋の主人に手あつくもてなしてもらったとか、到着が遅れたとき迎えに来てくれたとか、ホスピタリティーあふれる話を耳にする。そんな小屋にはリピーターも多く、円満な関係を築いている。また自家製味噌など食事にこだわったり、居心地よく清潔感のある小屋を維持するのもてなしのひとつとして好印象だ。

山小屋はどう在るべきか？ つい登山客のもてなしを考えがちだが、もっと基本的なことを大切にしなければならない。つまり「衣食住」の3要素だ。山小屋の意義が登山客の安全を支えることならば、より良い睡眠と食事を提供し翌日の体調を万全にすることが安全に繋がるだろう。部屋の雨漏りなんて論外で、枕や布団を干し、歩くたびガタガタ鳴る廊下も直したい。「衣」は乾燥室を拡充させ、衣類の状態を万全にするといったところか。そしてトイレや洗面所をきれいにしていれば、それだけで評判になる。コンサートや講習などイベントを催したりするのは、小屋を快適にしてからでも遅くないと思う。

山小屋はどう在るべきか？ 適度な距離感で、呼

び込まず後を追わずな関係が理想かなと考えている。トレイルランナーは積極的に計画に取り入れればいいし、テントでひとり静かに過ごしたいなら小屋側も干渉しない。ゴミを散らかすなら注意するし、達成感に喜んでいればおめでとうと言う。どの小屋だってそうだ。あえて在り方を考えるなら、衣食住の基礎的なサービスを手厚くし、登山客の安全な旅行を支える。という方針であると、今よりお互いに心地いい環境にできるんじゃないかと思う。

◇コラム 10 月 13 日 台風 19 号の被害について◇

寄稿の提出期限がせまる頃「大型で非常に強い台風」が 12 日夜に関東に上陸した。翌日 13 日の朝のニュースには、千曲川が氾濫し各地で土砂崩れが起きていると報道された。

みなさんに怪我はないだろうか。小菅村も避難指示がでていたようだが、昨日は他人の心配なんかしていられなかった。台風被害には去年も悩まされたからだ。ハケ岳美濃戸口から樹林帯を超えるまでの、橋という橋が流された。雨で増水した沢が地形を変え、登山口すぐの柳川橋も基礎ごとまるっとなくなっていた。車が通れるようになるまで 1 か月近くかかった。停電も 2 日ほど続き、断水に悩まされたのは記憶に新しい。

幸い、今年の台風は美濃戸口に停電もなくやり過ごせたように思えた。しかし肝心の柳川橋がまた崩れていた。車はもちろん、現時点では歩行者の通行も危険だ。つまり美濃戸口からの入山ができないということだ。歩行者だけでも通れるよう申請し、今週中には渡れるようにしたいという。桜平という登山口も一部路面が崩落、大型バスは通れないものの一般車は通行できるだけ幸運かもしれない。

私も南沢に入った。数か所、登山道に水が流れ込んでいるものの、橋などには被害なく、水量が減れば今までどおりのルートで問題なさそうだった。むしろ登山口までの林道に水の流れた溝が残り、いっそう悪路になった。こうなっては重機の出番だろう。

といった感じで、ハケ岳は一応歩ける状態だ。今日は台風一過の素晴らしい快晴、気温も下がり紅葉も始まって、いよいよ秋の行楽シーズンが始まったなと感じる。季節の移りかわりを一番に感じたご褒

美をもらったことだし、登山道整備と冬への準備に備えたい。



<車も通行できる柳川橋は、今年も外れてしまった>



<ハケ岳にも秋の風が吹いてきた>

(つづく)

土居将人：高校～大学でワンダーフォーゲル部所属。大学卒業後に勤めた会社より山小屋のほうが居心地がいいようで、実家にも帰っていない。最近 You Tube を使い始めた。

(事務局より)：土居くんは、ぬくい少年少女農学校、ちえのわ農学校、こすげ冒険学校の参加者でした。スタッフ経験ももちろんアリ。

